



悠久が織りなす、天空の峰



御嶽山国定公園  
Ontakesan Quasi-National Park



VI マニュアル

長野県 岐阜県

作成2026/4/1 改定

## 御嶽山国定公園 VI(ビジュアルアイデンティティ) 使用規定 1/3

---

本規定書では、ロゴマーク、キャッチコピー、キービジュアルをVI要素として定義する。

御嶽山は、標高3,067mの火山性独立峰です。雄大な景観を有し、麓から頂上にかけて自然植生が豊かに変化しています。また、古くから山岳信仰の対象として、自然と文化が融合した貴重な文化景観が根付いてきました。こうした価値が評価され、御嶽山は国定公園に指定されました。長野県・岐阜県(以下「両県」)では、これを記念して①ロゴマーク②キャッチコピー③キービジュアル(以下、VI構成要素)を作成しました。御嶽山国定公園の誕生を多くの人に周知し、また、親しんでもらうことで、この地域の優れた自然風景の保護と適正な利用に向けた理解の促進を図ることを目的としています。このVI構成要素の適正な使用を確保するために、使用規定を以下の通りとします。

(趣旨)

第1条 本規定は、御嶽山国定公園VI構成要素を使用する場合の取り扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 本規定が対象とするVI構成要素は、ガイドラインによる。

(使用できる者)

第3条 VI構成要素を使用できる者は、御嶽山国定公園を愛し、本規定の目的に賛同する団体または個人とする。

(禁止事項)

第4条 次の事項に該当する使用は、行ってはならない。

- (1) 御嶽山国定公園のイメージや信用を害し、または害するおそれがある使用
- (2) 法令や公序良俗に反する利用、またはおそれがある場合
- (3) 特定の団体や個人等を誹謗中傷する使用
- (4) 提供する商品やサービスの品質を担保、または証明するものとしての使用
- (5) 反社会的勢力もしくは、それに類する団体、企業、個人に関わりがある者による使用
- (6) 生産過程において自然環境等に多大な負荷を与える商品等への使用

(デザイン)

第5条 VI構成要素の使用にあたっては、オリジナルデザインの意図するものを損なわないよう十分留意し、ガイドラインを遵守することとする。

## 御嶽山国定公園 VI使用規定 2/3

---

(規定の履行)

第6条 VI構成要素を使用する者は、信義にしたがい、誠実にこの使用規定を履行しなければならない。  
また、VI構成要素を付した物件に関し、事故、苦情等が発生した場合、VI構成要素の使用者は誠意をもって必要な措置を講じること。

第7条 VI構成要素を使用する場合は、事前に下記行政機関へ申請し、承認を得てください。  
使用者は、別添届出書により使用目的、使用方法(対象、期間、箇所等)を事前に、下記に届け出ることとする。

【長野県】 木曾地域振興局 総務管理・環境課

電話：0264-25-2234 FAX：0264-23-2583 E-mail：kisocho-kankyo@pref.nagano.lg.jp

【岐阜県】 環境エネルギー生活部 自然環境課

電話：058-272-8231 FAX：058-278-2602 E-mail：c11269@pref.gifu.lg.jp

なお、受理通知の発行はしないこととする。届け出次第、ガイドラインを遵守した形で使用すること。

## 御嶽山国定公園 VI使用規定 3/3

---

第8条 VI構成要素の使用については、営利を目的とした商品等への使用も可能であるが、収益等が生じる場合は、それらを活用し、御嶽山国定公園の普及啓発や御嶽山の自然環境保全活動への協力を努力するものとする。

(改善の指示等)

第9条 使用規定に従わない利用に対し、両県は改善や使用の差し止めを指示することができる。この場合、使用規定に従わない使用をしていた者に損害が生じても、両県はその責めを負わない。

(権利)

第10条 VI構成要素に関する一切の権利は、両県に帰属する。

(附則) この規定は、令和8年3月6日から施行する。

(届出様式)

次ページの届出様式に記入し使用するか、項目に漏れがないよう各自作成\*のうえ届出すること。

提出の際は、具体的な概要書、企画書、図面等があれば、資料として添付すること。

※用紙の大きさは日本工業規格A4とすること。

# 御嶽山国定公園 VI 構成要素 使用届出書・使用規定遵守誓約書

年 月 日

届出者の氏名(団体にあつてはその名称)

印

御嶽山国定公園VI構成要素を使用したいので、  
使用規定第7条に基づき、次のとおり届け出ます。  
また、使用する際はガイドラインを遵守して  
使用することを誓います。

住所

電話

FAX

E-mail

目 的	
概 要 使用対象、場所、期間 及び箇所数 等	
備 考 有償物が否か、 添付資料 等	

## 目次

- 01 御嶽山国定公園 ロゴマーク
- 02 御嶽山国定公園 キャッチコピー
- 03 御嶽山国定公園 キービジュアル
- 04 ロゴマークのバリエーション
- 05 ロゴマークの表示色
- 06 ロゴマーク アイソレーション範囲／ロゴマーク 使用最小サイズ
- 07 ロゴマーク使用禁止例
- 08 キャッチコピー文字表記の使用方法
- 09 キービジュアルの配置例
- 10 キービジュアルの表示色
- 11 キービジュアルの扱いについて(塗り足しと断ち落とし等)
- 14 キービジュアル アイソレーション範囲／キービジュアル 使用最小サイズ
- 16 キービジュアル使用禁止例



## 御嶽山国定公園

Ontakesan Quasi-National Park

「御嶽山国定公園」の自然、動物、植生をモチーフにしたロゴマークです。

- ・雪冠の御嶽山
- ・日本一の溶岩流の断面である巖立
- ・御嶽山に多数存在する滝
- ・御嶽山頂上へと続く登山道
- ・御嶽山に生息する植物「コマクサ」
- ・御嶽山に生息する動物「雷鳥」
- ・荘厳さを表す雲

### [ロゴコンセプト]

長野県と岐阜県にまたがる標高3,067mの御嶽山は、独立峰としては日本第2位の高さを誇ります。その豊かな植生と生態系、素晴らしい景観は、唯一無二の姿をたたえています。

本シンボルマークは長野県・岐阜県の両県から望む御嶽山の美しい山容をモチーフとしています。山頂部には、剣ヶ峰・継母岳・継子岳・摩利支天山・王滝頂上・飛騨頂上の6つの峰を描き、独立峰としての存在感を表現しています。また、御嶽山周辺に見られる滝や、日本一の溶岩流の断面である巖立、雷鳥やコマクサを取り入れることで、地域の自然環境と生態系を象徴しています。本シンボルマークは、御嶽山が持つ「雄大さ」と「自然の豊かさ」を基本コンセプトとしたシンボルマークです。



## 悠久が織りなす、天空の峰

### 【キャッチコピーコンセプト】

御嶽山国定公園のビジョンをわかりやすく、簡潔に発信していくためのキャッチコピーを策定しました。

悠久は、「長い時間の積み重なり」「広がる地形」「人との関わりの歴史」を意味します。

御嶽山は、日本で2番目に高い独立峰として、標高3,067mという圧倒的な高さを誇ります。その成り立ちは、約10万年前に活動を始めた富士山よりもはるかに古く、約78万年前から山の形成が始まっています。長い年月のなかで、気候や標高差、豊かな森と水によって多様な生態系が生まれ、その恵みは人々の暮らしと深く結びついてきました。こうした自然環境と人の営みの積み重なりが天空の峰としての御嶽山を形づくっています。

本キャッチコピーは、景観や歴史、水や森林資源として重要な役割を担う御嶽山と、その周辺の大自然を次世代へつなげていくために、その普遍的な価値を端的に表現したものです。



### 【キービジュアルコンセプト】

キービジュアルのコンセプトは、「出会い」と「多様性」です。

御嶽山周辺で会うことのできるさまざまな動植物や美しい自然景観、ならびに人々の文化的な営みのワンシーンを、手描きのイラストによって表現しました。これらの要素を、雲間から覗き込むような構成とすることで、御嶽山での感動的な出会いや発見の体験を想起させるビジュアルとしています。

イラストには、「動物(ライチョウ)」「植物(コマクサ・オサバグサ)」「滝」「登山」の情景を描いています。見る人が御嶽山という場所の特性を直感的に理解できるように、各要素をシンプルな形状で構成し、色彩に統一感を持たせることで、調和の取れた美しさを追求しました。

また、御嶽山ならではの独自の「世界観」を重視し、荘厳さと神秘性を併せ持つ空気感を感じられるタッチに仕上げています。

ロゴマークとして使用する場合、シンボルマークとロゴタイプの比率・配置を変更しての使用は原則できません。

ロゴマークを正しく使用していくことでイメージを正確に伝えることができます。ロゴマークを表示する場合は、再現用データを使用し正確に表示してください。

ロゴタイプはマークとセットでの使用を推奨しますが、場合によってはシンボルマークのみでの使用が可能です。

ロゴ 01

※ヨコ基本タイプ



御嶽山 国定公園  
Ontakesan Quasi-National Park

ロゴ 02

※ヨコタイプ



御嶽山 国定公園  
Ontakesan Quasi-National Park

ロゴ 05

※タテ基本タイプ



御嶽山 国定公園  
Ontakesan Quasi-National Park

ロゴ 06

※タテタイプ



御嶽山 国定公園  
Ontakesan Quasi-National Park

ロゴ 03

※ヨコタイプ



御嶽山 国定公園  
Ontakesan Quasi-National Park

ロゴ 04

※ヨコタイプ



御嶽山 国定公園  
Ontakesan Quasi-National Park

シンボルマークのみで使用



定められた表示色は視覚的統一性を図る上で重要な役割を果たします。



御嶽山国定公園  
Ontakesan Quasi-National Park



御嶽山国定公園  
Ontakesan Quasi-National Park

モノクロ

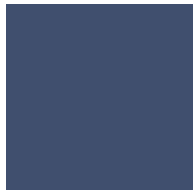
■ K100 ■ K30



御嶽山国定公園  
Ontakesan Quasi-National Park

特色1色

■ DIC433 100%



C90 M80 Y50 K00  
R46 G70 B103  
#2e4667  
DIC 433



C50 M5 Y50 K00  
R139 G195 B149  
#8bc395  
DIC 399



C15 M15 Y40 K00  
R225 G213 B165  
#e1d5a5  
DIC 506



C5 M30 Y20 K00  
R239 G195 B189  
#efc3bd  
DIC 260



C30 M10 Y00 K00  
R186 G212 B239  
#bad4ef  
DIC 44



御嶽山国定公園  
Ontakesan Quasi-National Park

白抜き 01

- ・フレームとタイプのみ CMYK 全て 0% に変更
- ・上記以外はロゴ基本形の色とする

御嶽山国定公園  
Ontakesan Quasi-National Park

白抜き 02

- ・ラインのみ

背景色は指定色以外も使用可能とします。

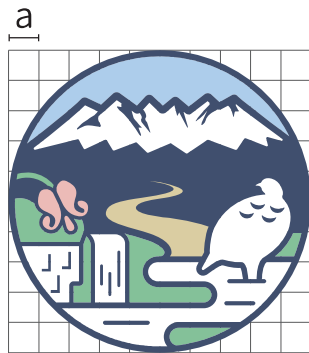
ただし、蛍光色や過度に彩度の高い色など、御嶽山国定公園のイメージを著しく損なう色の使用は避けてください。

また、写真の上へ白抜きロゴを配置する場合は、視認性が損なわれないように使用してください

アイソレーション範囲

アイソレーション範囲とは、ロゴの識別性を高め、独立性を確保するために、ロゴマークと他の表示要素との間に十分なスペースを設けることです。図示した基準は、ロゴと他の表示要素との最小限の間隔を示したものです。できる限り、これ以上の間隔を設けるようにしてください。なお、最小規定であっても、ロゴの周辺に個性の強い文字や図版などをレイアウトすることは避けてください。

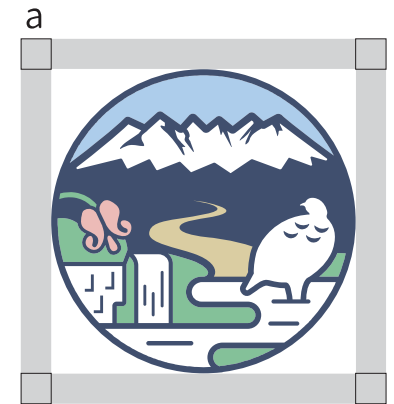
基準となるスペース



ロゴマークの幅の1/10をaとする

ロゴを表示する場合における再現可能な最小サイズです。

印刷物における最小使用サイズです。これ以下のサイズでは使用しないでください。印刷物以外の場合は条件が異なるため特に定めていませんが、個々の適用物に応じた再生可能な限界を、それぞれの最小使用サイズとします。



形状を変えたり、クリアスペースを守らず表示を行うことによってイメージが低下するばかりでなく、外部に対するコミュニケーションロスが生じてしまいます。このようなことがないよう、ロゴを正しい形で使用してください。



指定以外の位置関係に変えない



変形して使用しない



各エレメントの比率を変えない



指定色を変更しない



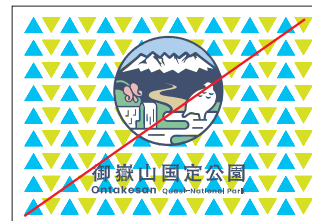
ロゴタイプを別のフォントに置き換えない



指定上設けた余白に文字要素を入れない



影をつけて使用しない



複雑なパターンの上に配置しない



フチをつけて太らせない



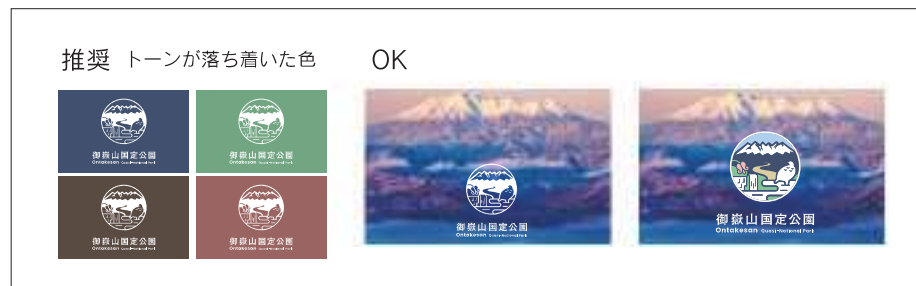
指定色の濃度を変えない



白抜きロゴの背景に蛍光色や彩度の高い色を使用しない



写真の上に配置する場合は視認性が損なわれないようにする  
動画において、ロゴが明確に認識できない状態で表示し続ける使用は不可とする  
※演出上の一時的な視認性の変化はこの限りではない。



横1行で使用の場合

## 悠久が織りなす、天空の峰

基本フォント 秀英明朝

※同じフォントの使用が厳しい場合、明朝系のフォントにて代用をお願いします

使用上の注意事項

- 織りなすの後に読点「、」を必ず入れてください
- 天空の峰の後に句点「。」は入れないでください
- ゴシック体のフォントを使用しないでください
- 書体に変形(長体・平体)をかけないでください
- 独自にデザインを施して使用しないでください
- 色は黒もしくは白抜きで使用してください
- 字間(文字と文字の間)を150em空けてください
- キャッチコピーの表現を変更して使用することはできません

横2行で使用する場合

基本 左揃え

悠久が織りなす、  
天空の峰

センター揃え

悠久が織りなす、  
天空の峰

縦1行で使用の場合

悠久が織りなす、  
天空の峰

縦1行で使用の場合

悠久が織りなす、  
天空の峰

キービジュアルの各要素は、余白が雲の形状に見えるよう設計しており、媒体や用途に応じて配置の変更が可能なビジュアル構成としています。

ただし、アイソレーションを遵守した上で、必ず上から「雷鳥(右上)」、「植物(左上)」、「滝(右下)」、「登山(左下)」のイメージの順になるように並べて使用してください。(上2種または下2種は同じ高さでの使用も可能です)

また、広報物に使用する際には必ず4つの要素をセットで配置してください。

※グッズ展開においては各要素を単品で使用することも可能です。(例：ステッカー、ピンバッジ等)

配置例 01

※正方形



配置例 02

※ヨコ長



配置例 05

※タテ長



配置例 03

※長方形：ヨコ



配置例 04

※長方形：タテ



基本的に画像データはそのままの状態で使用し、カラーや明るさの変更はしないでください。


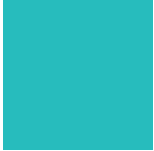
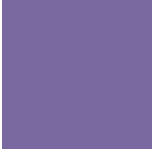

※ベクターデータは、制作物の仕様によりグラデーションの再現ができない場合に限り、使用してください。(例：シルクスクリーン印刷等)



カラー (画像データ)

モノクロ (画像データ)

単色 (ベクターデータ)

	
C72 M00 Y80 K00 R41 G176 B93 #29b05d DIC 172	C70 M00 Y30 K00 R32 G183 B188 #20b7bc DIC 67
	
C60 M65 Y10 K00 R122 G99 B159 #7a639f DIC 457	C80 M45 Y00 K00 R36 G120 B190 #2478be DIC 183



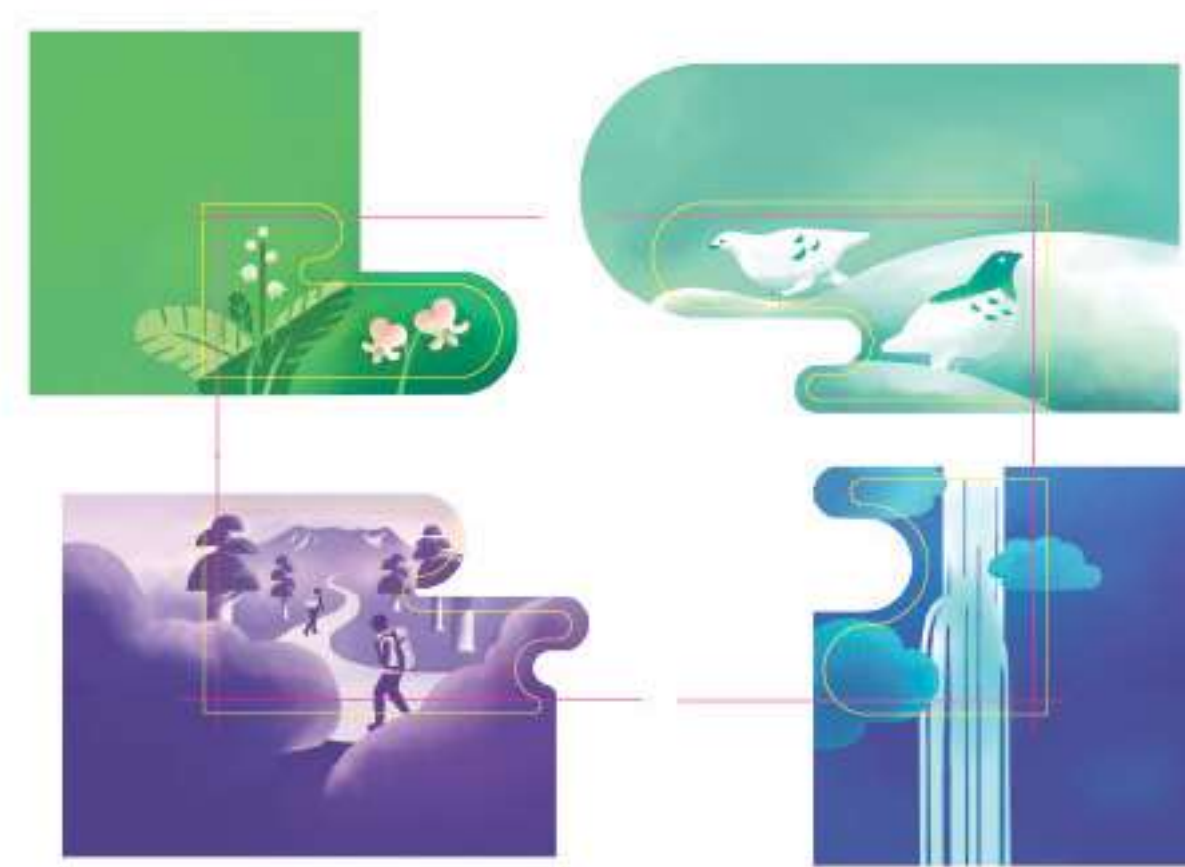
特色 1 色  
■ DIC433 100%



白抜き

## 黄色の線の範囲 ▶ シェイプA

- 黄色の線で囲った形が基本のシェイプAとなります。  
必ずこの位置で指定形状「シェイプA」のパスを用いて、クリッピングマスク処理を行ったうえで使用してください。
  - 画像データには塗り足し範囲を広めに設定してあります。印刷物の種類に応じて必要な方向に伸ばしてご使用ください
  - 断ち落としが必要な場合は赤線の位置で行ってください
- ※ 全面印刷ができない媒体や、決められた枠の範囲内にしかビジュアルを配置できない場合には、シェイプAを枠に合わせて配置してください
- ※ 各オブジェクトの上もしくは下側は、枠の端に接触しない場合は断ち落とし不要



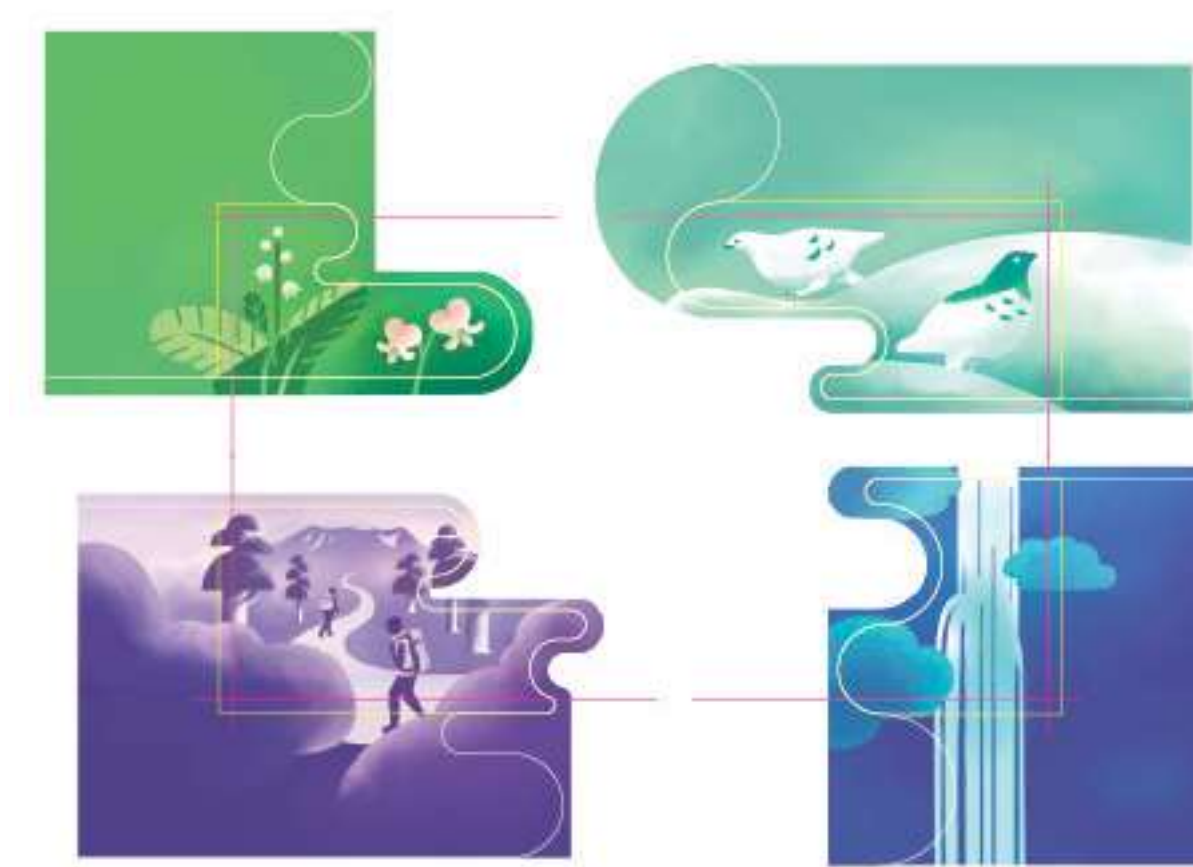
塗り足しの範囲と扱いは、パス化したキービジュアルのデータに関しても同様です。

黄色の線の範囲 ▶ シェイプA

白色の線の範囲 ▶ シェイプB

- 大判サイズの印刷物(看板・旗・垂れ幕等)など、広い範囲の塗り足しが必要な場合には、図に示した白線「シェイプB」のパスを用いて、クリッピングマスク処理を行ったうえで使用してください。またその際にも、必ず赤線の位置で断ち落としを行い、仕上がりのビジュアルが基本形(シェイプA)と統一感あるものとしてください。

※ 各オブジェクトの上もしくは下側は、枠の端に接触しない場合は断ち落とし不要(次ページ参照)



使用例

①キービジュアルを枠の四隅に合わせる場合



※必要な塗り足し範囲が広い場合

シェイプBを使用してください



②キービジュアルの上下に余白がある場合



※必要な塗り足し範囲が広い場合

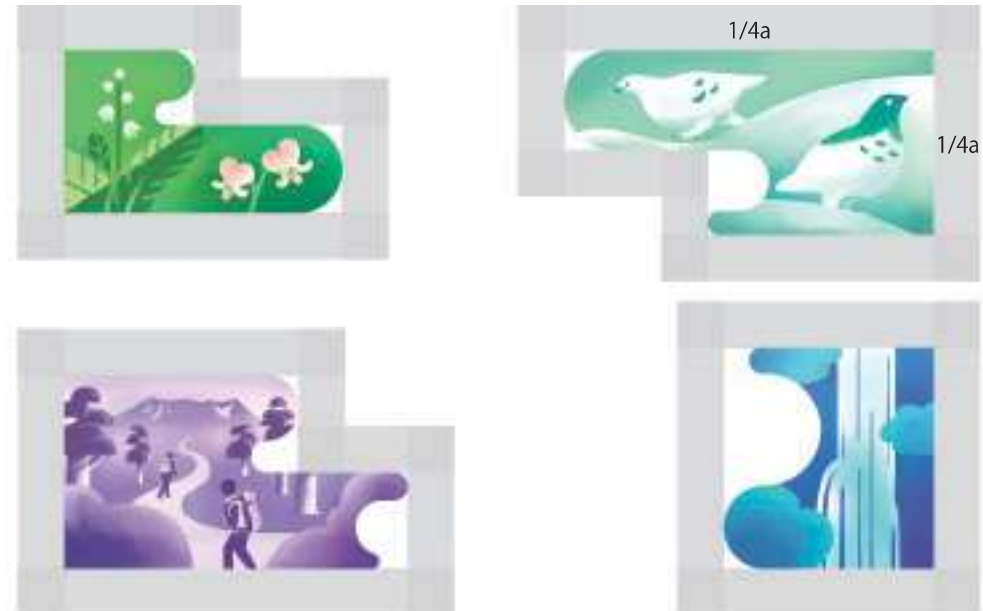


枠の外に出ない要素の上または下側の塗り足しは、断ち落とさずそのまま使用します。

アイソレーション範囲

図示した基準は、キービジュアルと他の表示要素との最小限の間隔を示したものです。できる限り、これ以上の間隔を設けるようにしてください。なお、最小規定であっても、キービジュアルの周辺に個性の強い文字や図版などをレイアウトすることは避けてください。

シェイプAの雷鳥のオブジェクトの高さをaとし、  
1/4a四方の余白がそれぞれ必要となります。

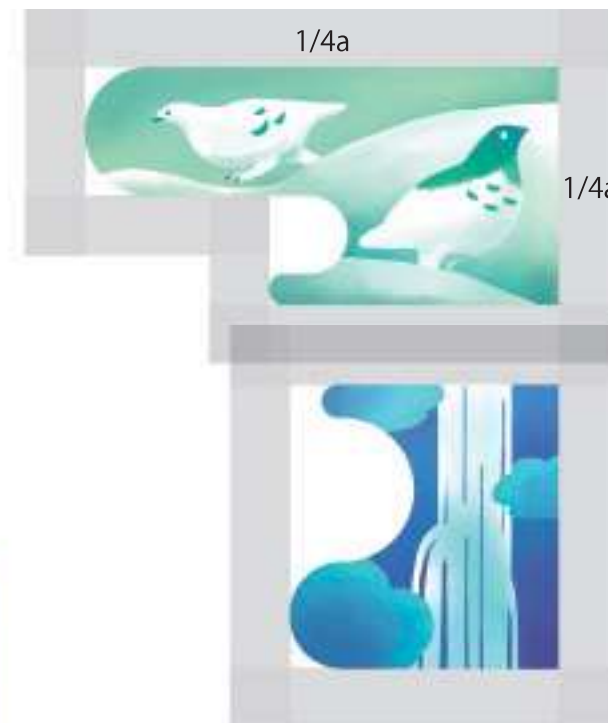
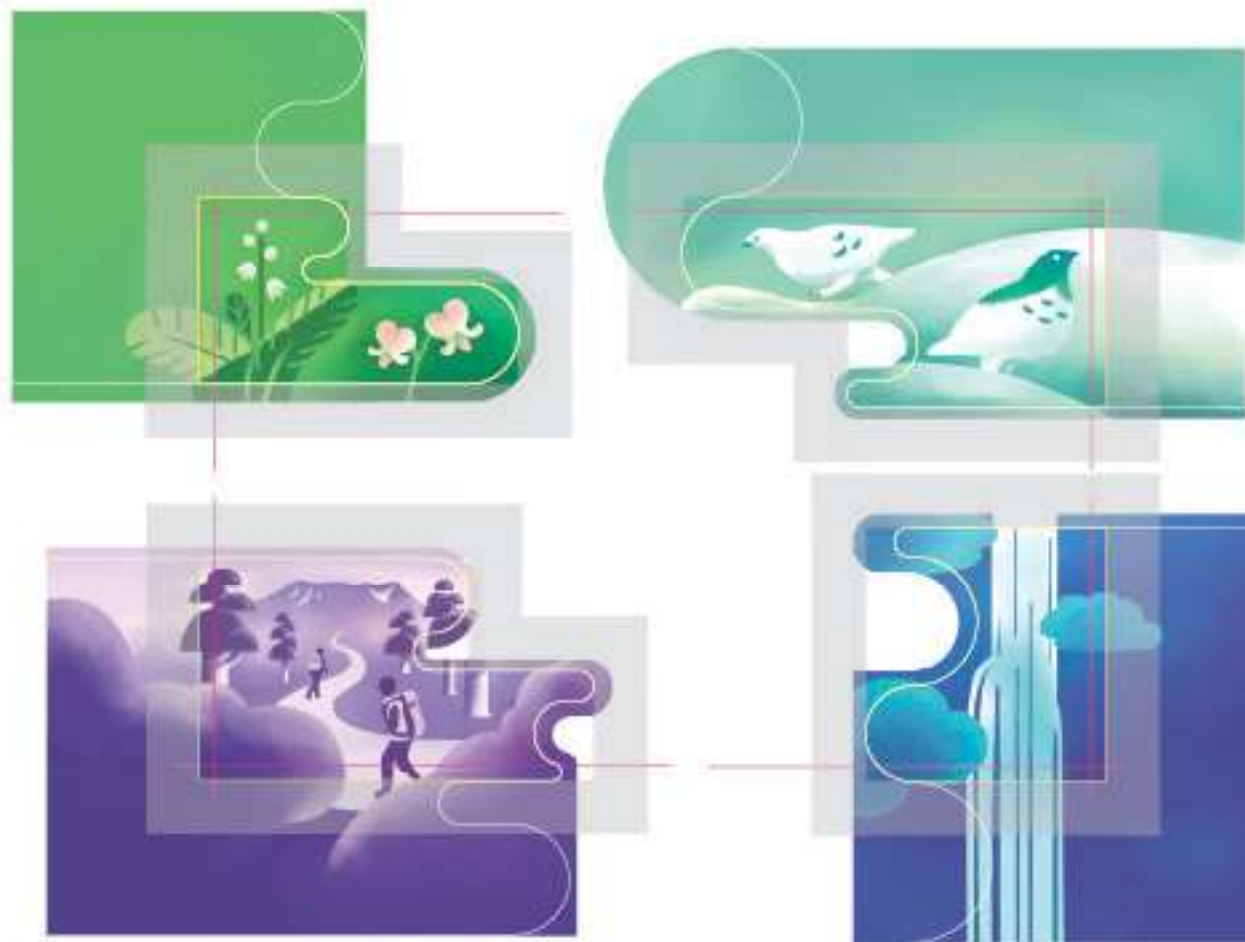


キービジュアルを表示する場合における  
再現可能な最小サイズです。(シェイプA)

印刷物における最小使用サイズです。これ以下のサイズでは使用しないでください。印刷物以外の場合は条件が異なるため特別に定めていませんが、個々の適用物に応じた再生可能な限界を、それぞれの最小使用サイズとします。



各シェイプとアイソレーション範囲を合わせた図



上図のように、各要素の間隔が1/4a以上離れていれば、アイソレーション自体は重複しても問題ありません。

形状を変えたり、クリアスペースを守らず表示を行うことによってイメージが低下するばかりでなく、外部に対するコミュニケーションロスが生じてしまいます。このようなことがないよう、キービジュアルを正しい形で使用してください。



変形して使用しない



画像の切り抜き位置を変更して使用しない



各要素の向きや角度を変えて使用しない



指定色を変更しない



各要素を横一列に並べない



指向上設けた余白に文字要素を入れない



影をつけて使用しない



複雑なパターンの上に配置しない



キービジュアルの両端を枠から離さない



指定色の明度・濃度を変えない



指定以外の位置関係に変えない  
(ヨコ配置・タテ配置問わず)



※全面印刷ができない媒体や、決められた枠の範囲内にしかビジュアルを配置できない場合には、シェイプAをその決められた枠に合わせて配置してください